

人とは、他の動物とは異なり、相手を思いあつた行動の出来る生き物だととらえました。わたしたちは自分自身を受け入れることによって、他者を受け入れることが出来るので、「人になれ」と言うのは自分自身の長所も短所も受け入れ、大切にしなさいと言う事だと考えました。

「奉仕せよ」とは人にされて嫌なことはしないことを前提に、自分がされて嬉しいことをしなさいと言う意味だと考えました。また、奉仕する上で必要なのは見返りを求めない、平等に奉仕するということを心に留めておくことだと考えました。

看護における見返りを求めない奉仕とは、看護師が患者さんに対して日常生活の援助を行うとき「してあげる」という意識を持たない事です。「してあげる」と言う考えの元に行う援助は時に患者さんが主体の援助ではなく、看護師が主体の援助となってしまうことがあります。ケアの主体は常に患者さんであり、患者さんと看護師の関係は対等であるべきだと考えました。

看護師として援助する時には患者さんのことを知る必要があり、相手のことを知るためには自分自身のことを十分に理解していなければいけません。このことから「人になれ」と「奉仕せよ」はつながっていて人になる事で奉仕することが出来るのだと考えました。また、奉仕をすることで、より自分自身のことを理解することが出来るので人として成熟することが出来るという結論が出ました。

患者さんにより良いケアを提供するためには、自分自身が人として成熟する必要があります。そのためには、自分の知識・技術を磨き、これから出会う患者さんに自分のできる最高のケアを提供できるよう準備することが当てはまると考えました。また、これからの実習を通してより自分自身が成熟できるように1つ1つの実習を大切にしていきたいです。